

五街道を補完すると共に  
地域の発展にも寄与

# 脇往還

# 江戸みち・再発見

# 五街道と主な脇往還



# 五街道

人・モノ・情報が行き交う  
国内の主要幹線道路

## 江戸を起点とする五街道

1603年、天下統一を果たした徳川家康は江戸幕府を樹立すると共に江戸（東京都）と地方を結ぶ五街道を整備しました。江戸・日本橋を起点とする東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道は、国内を統括する上で重要街道として位置づけられ、幕府が直接管轄しました。また道中には宿場と呼ばれる数多くの拠点を設置。五街道は、人・モノ・情報の交流場所として、わが国の文化形成や景観形成に大きな役割を果たしてきました。

### 東海道（とうかいどう）

東海道は、太平洋側の海岸沿い（東海、中部地域）を通過して京都市の三条大橋に至る街道。宿場は53カ所。関東と関西を結ぶ重要な陸路として多くの人々が往來しました。

### 中山道（なかせんどう）

中山道は、本州の中央部、山間地域を通過して草津（滋賀県草津市）に至る街道。宿場は67カ所。草津宿で東海道に合流します。本曾路・本曾街道なども呼ばれました。

### 甲州街道（こうしゅうかいどう）

甲州街道は、江戸と甲斐国（山梨県）を結ぶ街道。新宿、八王子を経て甲府に至り、下諏訪（長野県諏訪郡下諏訪町）で中山道と合流。宿場は38カ所。

### 日光街道（にっこうかいどう）

日光街道は、江戸から日光坊中（栃木県日光市）に至る街道。宿場は21カ所。日光には徳川家康を祀る日光東照宮があります。東北方面に至る物流の動脈として整備されました。

### 奥州街道（おうしゅうかいどう）

奥州街道は、江戸から宇都宮までの区間を日光街道と共用し、陸奥白川（福島県白河市）へと至る街道。宿場は27カ所。東北や北海道の産物が奥州街道を利用して運ばれました。



## 五街道に接続する街道

脇往還は、五街道以外の街道の総称で、脇街道、脇道などとも呼ばれています。主要な脇往還は幕府の管轄下にあり、その多くは五街道に接続。江戸と末端地域、あるいは地域間を結ぶ重要な陸路として機能してきました。脇往還もまた五街道と同様に、地域の発展、文化形成に重要な役割を果たしてきました。広域関東地域で知られる脇往還としては、青梅街道や日光例幣使街道、水戸街道、成田道、北国街道などがあります。

### 関東地域の主な脇往還

#### 青梅街道（おうめかいどう）

青梅街道は、東京都新宿区から青梅市を經由し、大菩薩峠を超えて山梨県甲府市に至る街道。甲州街道の新宿から分岐して、甲府宿で再び甲州街道に合流するため、甲州裏街道とも呼ばれました。

#### 日光例幣使街道（にっこうれいへいしかいどう）

日光例幣使街道は、江戸時代に朝廷から派遣された奉幣使（天皇の使者）が日光東照宮の例大祭へ参向するために整備された街道。中山道の含賀野宿から壬生通り（日光西街道）の榎木宿までの道程が日光例幣使街道です。

#### 水戸街道（みとかいどう）

水戸街道は、江戸から松戸を経て水戸に至る街道。徳川御三家の一つ、水戸藩（茨城県水戸市）と江戸をつなぐ重要な脇往還として幕府が管轄しました。水戸以北は岩城街道（磐城街道）と呼ばれ、岩沼宿で奥州街道と合流します。

#### 成田道（なりたどう）

成田道は、水戸街道の新宿（東京都葛飾区）から分岐して佐倉藩や成田山新勝寺に向かう街道。江戸幕府の公式文書に佐倉街道として記載されていますが、成田山新勝寺への参詣路として賑わった頃から、成田道と呼ばれるようになりまし。

#### 北国街道（ほっこくかいどう）

北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ街道で、幕府によって整備された脇往還であり、善光寺街道などとも呼ばれています。中山道逢分宿で中山道と分かれ、善光寺を経て新潟県、高田で北陸道に合流します。

